

【概要版】新しい文化芸術施設の整備に関する基本計画 ～集い、魅せる、つくる 躍動するまちを目指して～

平成 28 年 6 月 岡山市

1 新しい文化芸術施設の整備方針と役割 (P. 1～6)

「基本計画」は、これまでの検討経緯を踏まえ、有識者のご意見や、パブリックコメントなどによる皆様からの様々なご意見を参考にして、「千日前地区市街地再開発事業地」を整備地として、新しい文化芸術施設の整備方針を具体的に整理したものです。

【新しい文化芸術施設の整備方針】

- 現在、岡山市で行われている事業や活動を支援するとともに、自ら創造していくための礎を築いていきます。
- 岡山市域に新たな賑わいを創出することができる事業や活動を再開発地域と一体となって行います。
- 岡山市が誇れる新たな価値を創造することができる事業や活動を展開していきます。
- これまでの市民活動を支えるとともに、岡山市が誇れる舞台芸術、音楽芸術を育み、創り出し、発信させていくための機能を備えた施設整備を目指します。
- いつでも誰でも気軽に立ち寄り、憩うことができる機能を備えた施設整備を目指します。

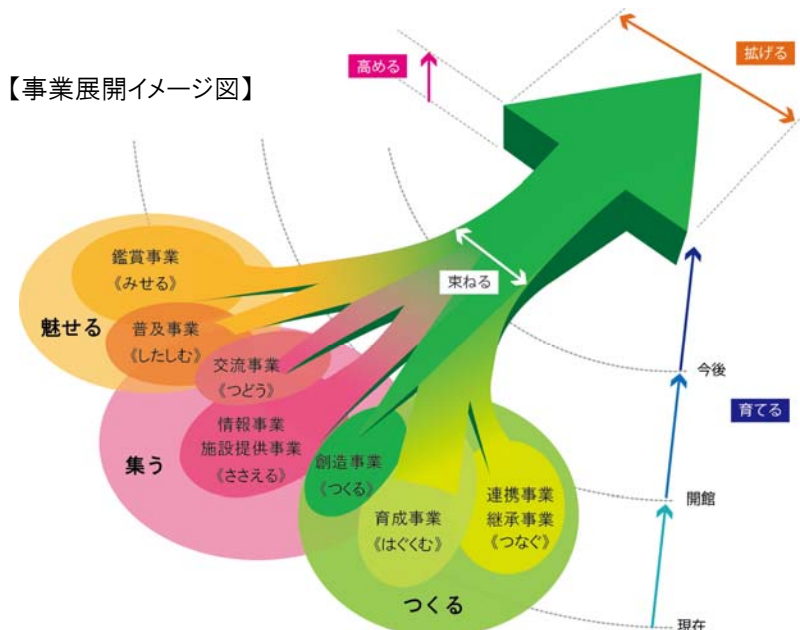
2 事業の考え方 (P. 7～9)

魅 せる	鑑賞事業《みせる》 普及事業《したしむ》
集 う	交流事業《つどう》 情報事業、施設提供事業《ささえる》
つ くる	創造事業《つくる》 育成事業《はぐくむ》 連携事業、継承事業《つなぐ》

新しい文化芸術施設は、「魅せる」「集う」「つくる」という活動を中心として事業を展開していきます。

これまで岡山市内で実施されてきた「魅せる」「集う」といった活動をより一層強化するとともに、芸術文化団体や市民が行ってきた様々な創作活動を支援し、新たな文化芸術の創造につなげていくために、「つくる」活動を実践していきます。

さらに、これらの活動に多くの人々が参加し、また市民と協働することで、様々な事業の充実を図ります。そして、「つくる」活動と、「魅せる」「集う」活動がつながり、相互に連携し、さらなる創造的な活動や事業の展開を図ることにより、岡山独自の文化芸術を創り出し、国内外へ発信していく創造型の劇場を目指します。



3 管理運営の考え方 (P. 10~15)

【管理運営の基本方針】

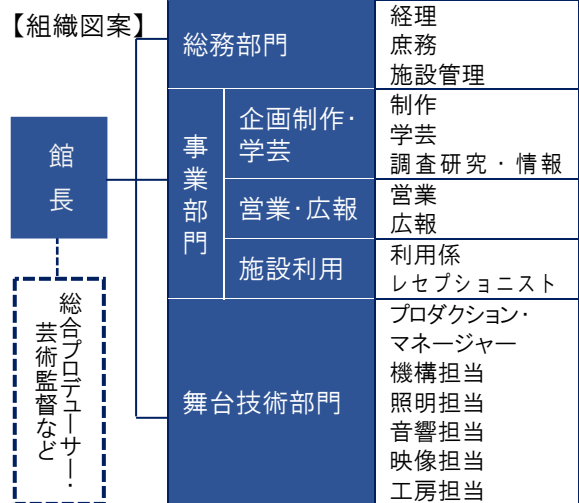
- 専門性の確保
- 柔軟な管理運営
- 非営利の経営視点を持った管理運営
- 評価の仕組みの構築

【組織体制の基本方針】

- 岡山市の文化振興施策を具体的に実現する劇場として相応しい運営体制
- 施設が備える機能を十分に発揮できる運営体制
- 柔軟な対応ができる運営体制

管理運営は、整備された施設や設備などが常に安全に運用されることを基本とし、目指していく事業や活動の成果を最大限に引き出していくための管理運営や運営組織を検討します。

事業の実施に必要なと想定される職能について、「組織図案」を示します。事業や活動を統括する能力として、総合プロデューサーや芸術監督などの配置についても、必要に応じて検討していきます。運営方式は「直営」・「指定管理者」のメリット・デメリットを精査し、今後、検討をすすめます。



4 諸室計画 (P. 16~28)

大ホールエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・バレエ・ダンス、オペラ、ミュージカル・音楽劇、大型演劇など大掛かりな舞台芸術の鑑賞事業を行うことができる高い専門性を備えた多機能ホールとして計画する。ポピュラーコンサートやロック、ジャズ・吹奏楽、邦楽・民族音楽などの音楽芸術の公演にも対応する。 ・プロセニウム形式の舞台(開口幅:18m、奥行:18m程度)とし、様々な舞台芸術の上演が可能な機能や、台詞など肉声の響きに配慮した残響時間や響きを備える。 ・1,700席程度(1階客席900席程度の3層構造)の客席を備える。 ・十分な遮音性能と静音性能を確保する。 ・大ホールホワイエへの入口は、観客を迎えるに相応しい設えとする。また、開場前の観客や高齢者、障がい者、子どもなどの利用に配慮した動線上の工夫を図る。 ・11t車両の利用を想定した大ホール専用の搬入口と複数台留置き可能な駐車スペースを設置する。
中ホールエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇やダンス・舞踊、伝統芸能など舞台芸術の創造活動を行い、その成果を広く発信していく高い専門性と機能を備えるホールとして計画する。創造活動に対応できる今日的機能を備えた舞台設備を設置したプロセニウム形式の舞台(開口幅:14.5m、奥行:14.5m程度)とし、台詞など肉声の響きに配慮した残響時間や響きを備える。 ・可動式音響反射板の使用時には、クラシック音楽など生音の響きを大切にする音楽芸術に対応できる音場となるよう計画し、市民文化ホールがこれまで担ってきた比較的小規模な音楽利用にも対応できるものとする。 ・800席程度(1階客席600席程度の2層構造)の客席を備える。 ・十分な遮音性能と静音性能を確保する。 ・大ホール同様、観客を迎えるに相応しい設えや動線上の工夫を図る。 ・11t車両の利用を想定した中ホール専用の搬入口を設置する。
創造支援エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・創造活動や日常的な市民の練習活動を支えるためのスペース。相互の室の活動を制約しない計画とする。 ・大スタジオは大ホール、大練習室は中ホールでの公演の稽古を想定し、主舞台面積のほか必要なスペースを加えた面積を確保する。 ・大スタジオと大練習室は、公演利用を想定した機能を備える。
交流促進エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でもが気軽に立ち寄り、憩える多目的なオープンスペース。 ・人々の交流の機会や賑わいを創出する空間。
その他(管理エリア)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理に必要な事務室及び関係諸室、その他(救護室等)を設置する。

5 施設計画 (P. 29~41)

来館者動線	・主に、周辺の街路から来館する観客や施設利用者などを想定。 ・誰もがアクセスしやすくする。
出演者・関係者動線	・主に、大ホール・中ホールで上演される演目への出演者や関係者の動きを想定。 ・観客やホール以外の施設利用者の動線と交わらないものとする。
大道具等搬入動線	・公演や催物で使用する道具や機材などの動きを想定。 ・簡便かつ安全な運搬を可能とする。

大ホールエリア	約 6,000 m ²
中ホールエリア	約 3,000 m ²
創造支援エリア	約 3,700 m ²
交流促進エリア	約 800 m ²
管理エリア・その他	約 6,500 m ²
合計	約 20,000 m ²

新しい文化芸術施設の動線には、大別して上記の3つの動線が必要です。これらの動線は、劇場施設の特異性に鑑み、基本的に分離して計画します。

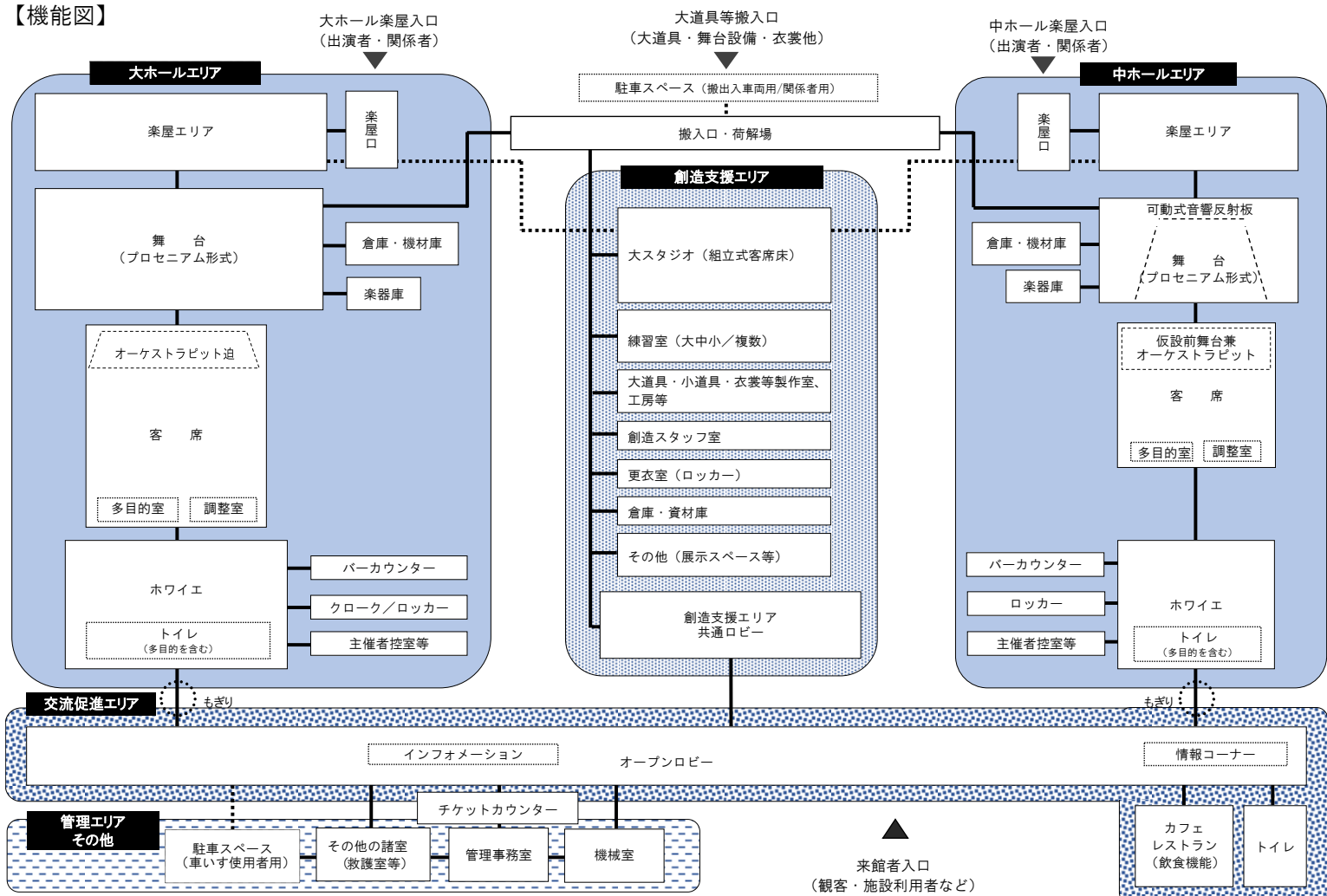
また、本施設は市街地再開発事業により整備される複合施設であり、本施設以外の施設部分や共用部分の建物設備諸室等への動線についても、別途その必要性に応じた検討を行います。

市街地再開発事業として、本施設に加えて、「商業」、「事務所」、「住宅」などの施設を複合化することが提案されています。これらの異なる施設を整備予定地に効果的に配置するために、【施設配置の考え方】に考慮して、本施設の配置を検討します。

【施設配置の考え方】

- 周辺街区への賑わい誘導
- 象徴としての外観
- 高さへの配慮

【機能図】



6 施設整備事業費などの考え方 (P. 42~44)

【建設費及び概算整備費】

- 近年整備された文化芸術施設の建設事例によると、床面積1㎡当たりの建設費は約75万円程度(税抜)となっています。ただし、国土交通省が示す労務費単価の上昇や、東京オリンピック開催に伴う建設需要の高まりによる資材費の高騰などの要因により、今後変動していく可能性があります。
 - 新しい文化芸術施設は市街地再開発事業により整備された建物の一部を、市が保留床として取得するため、整備費は市街地再開発事業において算出される保留床取得額(*)となります。
- (*)保留床取得額とは、施設の建設費だけでなく、施設の整備に必要な経費の一部を含め、施行者から保留床として買い取るために必要な費用です。
- 整備費の財源として、有利な財源である合併推進債を活用し、実質的な市の負担軽減を図ります。なお、合併推進債を活用するために平成33年度末までの施設整備が必要となります。

【運営費等の考え方】

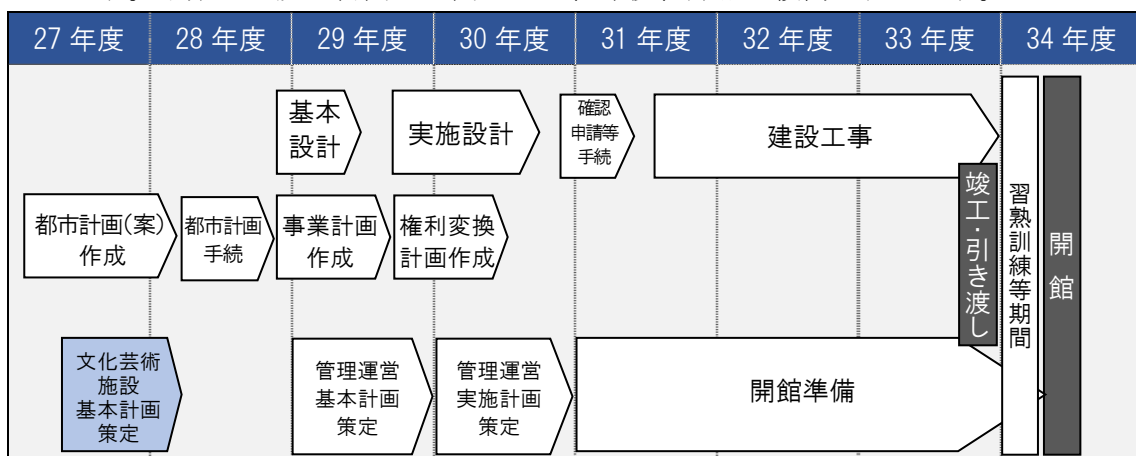
- 新しい文化芸術施設は、岡山市の文化振興施策を具現化させていくための拠点施設として運営します。市の文化事業を継続的かつ効果的に展開していくためには、一定の経費の支出(岡山市の将来に向けた文化への投資、文化を活かしたまちづくりへの投資)が必要となります。
- 事業や活動を継続的に行うためには、使用料収入や事業収入を高めることや、外部からの助成金などを積極的に得るなど、自己財源比率を高めるように努める必要があります。

収入の考え方	支出の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・使用料収入の確保 ・外部からの資金の確保などによる事業費における自己財源比率の向上 ・再開発施設全体としての営業活動による独自財源の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費 ・柔軟性の高い組織体制 ・効果的かつ効率的な維持管理の実践 ・複合化された施設としての必要経費

7 整備スケジュール (P. 45~48)

開館までのスケジュールは以下を想定しています。

文化事業は開館後の事業を視野に入れ、開館前から開始し、舞台設備は特殊な機能を備えることから、開館後の運営体制を踏まえ、できるだけ早期から専門性を備えた劇場・音楽堂等施設での業務経験を有する人材を配置し、開館までの業務を推進することが必要となります。事業や施設運営関連に関しては、今後、詳細な検討を行います。



【今後の検討課題の整理】

- 地域の活性化と継続的な賑わい創出に向けた検討
- 再開発施設としての検討
- 整備推進体制の構築
- 事業内容・管理運営の検討
- 公共交通からのアクセス性の向上
- 駐車場の検討
- 施設整備情報の公開と市民意見の聴取